

“国際交流から人間交流へ”

社団法人都留青年会議所 副理事長 早川 政一



ヘンダーソンビル市メモリアルパークで桜の記念植樹

ではなかったかと思えます。

青年会議所のメンバーが、友好使節団の一員としてヘンダーソンビル市を訪れ、色々な感動と感銘を受けたことから海外使節の夢がふくらみました。そして、

都留市の子供達も、いや、子供達こそ都留を飛び出し、異国へ送り出そう。

子供達だけの使節団を派遣しよう。そんな気持ちで、

昨年の海外ちびっ子使節団を編成するきっかけになりました。しかし、いざスタートしてみるといろいろ問題が私達にぶつかってき

ました。まず、渡米の時期、健康の問題、団員の年齢、そして、安全性等々。我々だけでは解決できない多くの問題がありました。が、

都留・ヘンダーソンビル友好委員会と市役所のみなさん、そして関係各位のご協力により素晴らしい

使節団を編成し、無事任務を果すことができました。本当に感謝申し上げます。そして子供達の心の中に残った、有形、無形の思い出と感動が、いつの日か必ずや花開くと信じております。

都留市も国際化に応じ、桂高校の英語科設置、中学校へ外国人英語教師の派遣等、いろいろな事業を試行しているようです。都留青年会議所としても、時代の波に乗り遅れる事のないよう運動を展開して行きたいと思えます。

さて、今年四月にはヘンダーソンビル市より、アウスブルック市長、友好委員会のパターソン会長など多くの要人が都留市を訪問されました。私達、青年会議所も他の団体といっしょになり、微力ながら公式訪問団の受け入れに協力できたのではないかと考えています。多くの市民の心もったサー

ビスと行動で、私達自身の中にも交流の芽がめばえて来たのではないかと考えております。会話は片言の英語と、後はゼスチュアで何とか通じ合う事ができました。言葉

以上に行動で表して理解されたのではないかと思えます。

昨年のヘンダーソンビル市訪問と今年の公式訪問団来市を通じ、「国際交流」の持つ本当の意味が見えて来たように思えます。

他の国の新しい価値感や生活と接することによって一人ひとりの意識を変えることは、沈滞しがちな地方都市社会を活性化するのにどれほど大きな役割を果すのか計り知れません。また、草の根から生れた国際交流は、私達の外の世界に開く心を養います。閉鎖的、排他的になりやすい地域性から脱却し、生き生きとした都留市民としての自信を培う絶好の機会を私達に与えてくれるでしょう。

異文化は地域を変える力を持っています。

青年会議所運動も委員会や年度により、事業の方向は多少変更せざるを得ない時があります。毎年理事長が変わり委員も変わります。しかし、都留青年会議所も創立21年目に入り、人間で言えば20才を過ぎて立派な成人になったと言う自覚から、これからは将来を見据えた事業計画と展開を第一の責務とし、私達一人ひとりが信念をもって行動する勇気を携え会議所運動を行いたいと思えます。そんな意味から国

際交流を始めとする各事業を、長期的視野に立って展開して行きたいと思えます。

国際交流事業を通じて学んだ多くの事をふまえ、メンバー一人ひとりの心の中に残った感動と思い出を次の活動につなげ、国際交流がいつの日か、人間交流になる様努力して行きたいと思えます。

「小さな城下町・都留から、壮大な世界へ、交流のかけ橋が子供の手でつながる様」にして、交流を通じて私達の都留を見なおし、地域を見なおしながら歴史と文化を再認識し、地域発展につなげばと考えております。

これからも、よろしく御協力をお願いします。

（社）都留青年会議所メンバー

